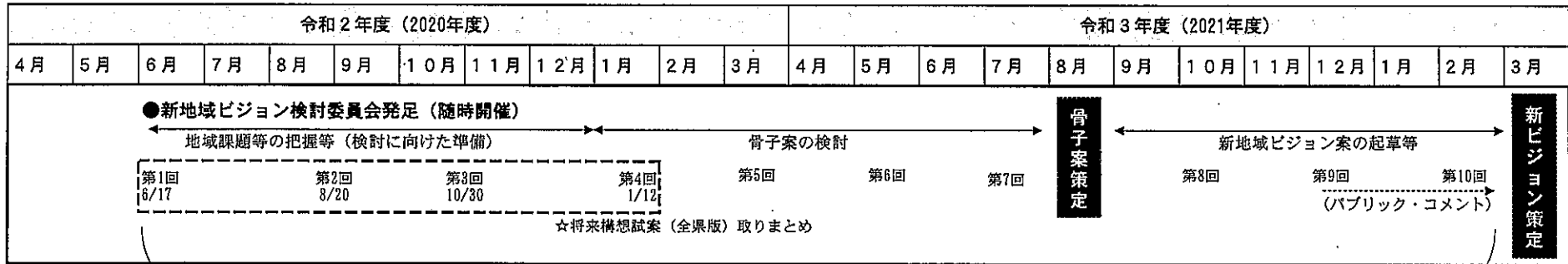


◆新地域ビジョン策定に向けたスケジュール



◆県民の意見収集に向けたこれまでの取組

①ビジョンを語る会

地域の様々な団体やグループ等が金澤副知事と地域の将来像について意見交換を実施

- ・10月6日〔自営業や地域活動を行っている淡路市在住の11名〕
- ・10月26日〔子育て中の母親が中心の南あわじ市、洲本市在住の女性10名〕
- ・11月9日〔洲本温泉観光旅館連盟の役員7名〕
- ・12月2日〔兵庫県建設業協会淡路市支部青年部会の会員11名〕

※11月4日に実施予定であった「いずみ会淡路ブロック協議会」との意見交換会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止



②地域デザイン会議

地域住民がワークショップを複数回実施しながら地域の将来デザインを描く

- ・ワークショップの運営をNPO法人ソーシャルデザインセンター淡路に委託
- ・島内在住の24名による第1回ワークショップを10月26日に開催
- ・今後、1月と2月にワークショップを実施し、年度内に地域デザイン案を取りまとめる予定



③ビジョン出前講座

高校や大学等でビジョンについての講義及び生徒と意見交換を実施

- ・洲本実業高校(12月17日実施)  
2年生～3年生の26名が出席し講義及びグループワークを実施
- ・淡路高校(12月22日実施)  
2年生118名が出席し、講義及び代表者4名による意見発表を実施



④未来フォーラム(予定)

一般県民100名程度を募集し、新ビジョンの検討状況の報告及び地域の将来を考えるワークショップ等を実施

日時:令和3年3月13日(土)

13:30～

場所:南あわじ市広田地区公民館

淡路新地域ビジョン検討委員会の進め方(案)

(第1回～第3回)

- ・地域課題の現状把握等(フリーに意見出し)

(第4回)1月

- ・新ビジョンの策定イメージの共有
- ・これまでの検討委員会やビジョンを語る会などで出た意見の共有
- ・めざす将来像の実現に向けた具体的な行動について議論

(第5回)3月

- ・全県の将来構想研究会による将来構想試案の情報提供
- ・淡路新地域ビジョンの構成の検討(案案提示)

(第6回)5月

- ・地域デザイン案の共有
- ・構成の確定
- ・淡路新地域ビジョンの骨子となる理念や目標の検討(案案提示)

(第7回)7月

- ・理念や目標の修正検討

〔8月  
理念、目標等の骨子の確定〕

(第8回)10月

- ・新地域ビジョンの本体案の検討(案案提示)

(第9回)12月

- ・新地域ビジョンの本体案の修正検討
- ・パブリックコメント実施

(第10回)2月

- ・パブリックコメント結果を踏まえた最終案の修正検討

〔3月  
淡路新地域ビジョン本体の確定〕

※随時、メールにより内容確認等を行う

区分	検討委員会やビジョンを語る会での意見（キーワード）等	
	将来に関する意見等	課題、その他意見
暮らし 地域づくり 防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいコミュニティで確立する「まち」が島の中にたくさんあれば移住者も増えてくる。</li> <li>・人と人との関わりで信頼できるような田舎づくりが出来ればいい。</li> <li>・地域を移動しなくても交流できる場所があれば安心して介護が続いてける。</li> <li>・横のつながりが出来ていくような場づくりが出来ればいい。</li> <li>・淡路島は子育てがしやすい。介護の部分をしっかりすればものすごく魅力的な地域になる。</li> <li>・島内どこにおいても情報が共有できるようになってほしい。</li> <li>・どんなマイノリティの人でも受け入れられ、認め合える社会をつくる事が出来れば住みやすく移住する人も暮らしやすくなる。</li> <li>・30年後の地域づくりに人の優しさを重視する必要がある。</li> <li>・対外的にはリゾート島に、対内的には高齢者にとって住みやすい地域になればいい。</li> <li>・建物や道路、ライフラインの老朽化に伴って、居住地を限定するようなコンパクトシティをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住む場所と働く場所（農地）がリンクしていない。</li> <li>・災害が起きたときには公助をあてにせず、自分たちで何とかするという意識を高める必要がある。</li> <li>・淡路島はユニクロ、イオン、しまむらなど最低限の物が揃っている。都市部への買い物はたまに行くのが楽しい。</li> <li>・夜は街頭が暗く暗い。移動手段が少なく子供を遊ばせる公園も少ない。</li> </ul>
経済 仕事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進む中で、自分の子供に継ぐのではなく、それをやりたいという人に継ぐという「継業」という方法で産業を持続させていく。</li> <li>・観光の良いイメージが農業や水産業の価値を高めることにもなれば、豊かな暮らしにつながる。</li> <li>・地域の人だけで農業を盛り上げるのは困難。島外からの入植者が先進的な農業に取り組み、子供達にもつながればいい。</li> <li>・規制緩和が進めば若者が起業を前向きに考えられるようになる。</li> <li>・地域内で経済を回し、その資本を地域のまちづくりに生かせるような仕組みを作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者は続かないというのが現状である。</li> <li>・雇用就農で担い手を増やすために会社や組織の受け皿が必要。</li> <li>・大学を卒業しても淡路で就職先が少ない。</li> <li>・子供が淡路に帰ってきて働くとなると、農業や観光業、医療介護など選択肢が限られている。</li> </ul>
観光 交流（移住）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路の魚は東京でも人気がある。それを目当てに淡路に来てもらい最終的に移住につながればいい。</li> <li>・淡路島は何よりも島ということが魅力であり、県内でも独自の価値を持っている。観光や移住先として考えたときにも魅力的である。</li> <li>・淡路に住みリモートで働けるようになれば、空き家や農地がどんどん活用され暮らしやすい淡路島になる。</li> <li>・市民に直面するサービスを統一することで移住しやすい環境づくりができる。</li> <li>・淡路島のポテンシャルを生かすには観光業が大事である。さらに発信していくことが必要。</li> <li>・リゾート分野において、エステティシャンなど海外と人材交流をすることで癒しのブランディングができるのではないかと。</li> <li>・世界一の吊り橋である明石海峡大橋や鳴門の渦潮など、淡路島にしかないものを磨き上げて観光スポットとして発信していく必要がある。</li> <li>・東京一極集中是正に伴う地方移転先の候補地となるようPRを強化する。</li> <li>・災害対策をしっかりして島外から人を安心して迎え入れることが大事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島外から淡路に来て商売を始めるような人を応援できる支援制度が増えればいい。</li> <li>・観光面の商品力を強化しないと淡路島に來たり移住したりということにつながらない。</li> <li>・関西では食が豊かな島ということが認知されているが、関東では通用しない。</li> <li>・地域のことかわかる移住者マニュアルのようなものがあるといい。</li> <li>・観光客で地域が活性化することは良いことだが、地域住民との軋轢を解消しないと真の活性化とは言えない。</li> <li>・淡路の人は排他的な部分がある。</li> <li>・コロナ以降、土地を売りたい人や阪神間から土地を探す人が増えた。</li> <li>・リモートが進んでいるが、観光については現地には足を運んでそこにしかない空気感を体験することに意義がある。</li> <li>・淡路島には自然が多いので、地域資源を生かした観光施設の誘致が必要。</li> </ul>
教育 人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供達に淡路島の魅力や良さを伝えて島外の人たちにその魅力を発信することで移住や観光につなげる。</li> <li>・子供の頃から伝統文化を学び、日常の中で伝えていくことは大切なことである。</li> <li>・和合の精神で島の人もお互いに良いところを受け入れて島が豊かになればいい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島には習い事の選択肢が少ない。子供を産むときはいいが、そのあとの子育てに不安を感じる。</li> <li>・習い事が少ないということは逆に新たなサービスを立ち上げやすいということ。</li> <li>・淡路島には学ぶ場所が少ない。島内に地域資源の活用を学べる場所がほしい。</li> <li>・小さいうちに淡路のことを学ばないと淡路島に魅力を感じなくなり、島に帰ってこなくなる。</li> <li>・淡路は公立の小中高一貫進路線が決まっておき阪神間に比べて競争がない。</li> <li>・都会の生活は窮屈。子供には農業や漁業などの体験学習をさせたい。</li> <li>・淡路市に外国人が英語を教えながら自然で遊ぶ施設がある。そういうところに子供を預けたいと思う。</li> <li>・都市部と同じではなく、地域の特色を生かした学校があればいい。</li> </ul>
環境 資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路島の資源を生かした農産物のブランディングなど、あらゆる産業の方が協力して何か出来ればいい。</li> <li>・淡路島は将来性のある土地であり、くとうみの島というストーリー性でも抜群の地位である。</li> <li>・自然環境の豊かさは農地や農産物のブランディングのネタになる。生き物や自然を使ったブランディングであれば地域の自然生物多様性を持続的に使ってお金に換えることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・淡路の人は自分の土地のものに興味がない人が多い。外の地域を見ることで地域資源の良さを認識して伝えていくことが大事。</li> <li>・淡路島は自然が豊かであるが、手入れされた自然環境がない。</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀淡連絡道路が実現することで大阪湾を高速道路で回ることができ淡路島の利用価値が高まる。</li> <li>・明石海峡大橋を利用して、新幹線や路面電車などを整備して阪神間へのアクセスを向上させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市バスは便数が少なかったり、乗り継ぎが面倒であったり不便である。</li> <li>・西浦線の道路整備が出来ていない</li> <li>・災害に強い交通ネットワークを構築し企業が参入しやすい環境を整える必要がある。</li> <li>・淡路島は車がないと移動に困る。</li> <li>・淡路の人はタクシーやバスを普段使わない（料金が安い）</li> <li>・都市部での移動は電車やバスにしても何もかも時間に左右されるが淡路では車があれば好きなときに自由に移動出来る。</li> </ul>



# 淡路新地域ビジョン検討委員会におけるワードクラウド

※ワードクラウド…出現頻度の高い単語を複数選出、その頻度に応じた大きさを図示したもの

## 第1回検討委員会



## 第2回検討委員会



## 第3回検討委員会







## ビジョン出前講座による高校生の意見

### ◆いま住んでいる地域の自慢、これからも残していきたいもの

- ・自然（海や山、夕日の景色が綺麗 星が綺麗 緑が多い）
- ・人柄（住民が優しくて温かい 近所づきあいがいい）
- ・商店街（レトロな雰囲気）
- ・人形浄瑠璃
- ・たまねぎが美味しい
- ・まちが静か

### ◆30年後、地域はどうなっていてほしいか

- ・交通の利便性が良くなってほしい
- ・就職先が増えてほしい
- ・ショッピングモールを建設してほしい
- ・今と変わらない。田舎を守る
- ・自然を残した状態で商店街が発展してほしい
- ・人口が多いまま子供達が安全で遊べる環境を整える
- ・海だけでなく川もきれいに
- ・文化、技術、伝統などを受け継ぐ
- ・医療が発展してみんなが安心して暮らせるようになってほしい
- ・地産地消が活発になって活気のあるまちになってほしい
- ・自然を生かした観光地化が進んでほしい
- ・デパートなどの商業施設や生活に便利な施設が増え、島内でも買い物やアミューズメントが楽しめて若者にも魅力的な活気のあるまちになってほしい
- ・自然を残しつつ、高齢者の割合が増えず、住宅が建ち並び子供達が地域の希望となっていてほしい

### ◆30年後、どんな場所に住んでいて、その社会は今と比べてどう良くなっているか

- ・自然があふれる地域に住んでいて、地歩でも仕事があり、都会と同様の収入を得られるようになっている
- ・地域活動など人のつながりが増え、住民が自分たちで地域を住みやすくしていく中で、環境汚染が減り、治安が良くなり子供が安心して遊ぶことが出来る社会になっている
- ・コンクリートばかりの景観ではなく、自然も楽しめるようになっている
- ・スポーツや清掃活動の地域行事が増え、地域の人たちが仲良く暮している
- ・職種が増えて仕事が多様化し、女性の活躍の場が増えている
- ・保育所の増加など子供を育てる環境が整い、子供が増えて活気がある社会になっている
- ・都市にアクセスしやすい場所に住んでいる
- ・今以上にAI等の技術が進歩して便利で住みやすい社会になっている。（その反面、多くの仕事がAI化により無くなるのが心配）
- ・空き地を利用して地域住民が気軽に集まったり遊んだり出来る広場や建物を造りコミュニケーションの場を設けたり地域清掃に力を入れたい
- ・少子高齢化が進む一方で外国人労働者が増えるなどグローバル化が進んでいる

### ◆思い描く将来の実現に向けて私たちが出来ることは

- ・伝統を引き継いでいく
- ・若い人が高齢者から話を聞いて学び、それを自分の子供に伝えていく
- ・紙（高齢者向け）とSNS（若者向け）の活用
- ・企業の誘致
- ・小、中学校での体験授業の実施
- ・地域の人々とのつながりを大切にする
- ・身近なことから環境問題に取り組む。
- ・よりよく住みやすい地域をつくるための知識を身につける。そのために積極的に学校の学習に取り組み、免許や資格を積極的に取る
- ・地域の良さをSNSで発信し若者を増やして地域の活性化を図る
- ・祭りなどの地域のイベントをつくり淡路の良さに気づく
- ・AIには出来ない考える力、想像力を身につける
- ・AI婚活など少子化対策に力を入れる